

【成果報告会】

文部科学省委託事業

令和4年度 幼児教育における人材確保・キャリアアップ支援事業
現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業

成果報告会

2023/03/11

岐阜女子大学

成果報告

内 容

1. 幼児教育における人材・キャリアアップ支援事業 実施目的・概要
2. 現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業 実施目的・概要
3. 幼児教育における人材・キャリアアップ支援事業 評価
4. 成果
5. 令和5年度に向けて

実施目的・概要

実施目的・概要

<実施事業>

新たな教師の学びの姿を実現するための質の高い効果的な免許法認定講習等の開発・実施

<実施期間>

令和4年5月20日～令和5年3月31日

<事業内容>

- ・ 免許法認定講習等の開発・実施
- ・ 新たな教師の学び（オンライン等）の開発

実施目的・概要

実施目的・概要

<事業内容>

- ・ 免許法認定講習等の開発・実施
- ・ 新たな教師の学び（オンライン等）の開発

実務年数12年以上の幼稚園教諭の新たなキャリアとして目指す「幼児教育コーディネータ」を養成し、2種免許状保有者の専門性の向上を図り、上進を推進する。

- ① 自律的なオンライン講座のデザインと教えないで学べる学修環境の設計
- ② キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力の構造化
- ③ 幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラム構造化と内容の精選
- ④ 「幼児教育コーディネータ養成講座」の実施（幼稚園教諭2種免許状から1種免許状に上進する認定講座の開設）

令和4年度 幼児教育における人材・キャリアアップ支援事業 実施概要

実施概要

- ① 自律的なオンライン講座のデザインと教えないで学べる学修環境の設計
- ④ 「幼児教育コーディネータ養成講座」の実施
(幼稚園教諭2種免許状から1種免許状に上進する認定講座の開設)

幼稚園教諭2種免許状から1種免許状への上進のための、
文部科学省認定公開講座を開講

<開設科目>

No	教育職員免許法 施行規則に定める 科目区分等	科目名	単位数	受講者数 (人)	スタートアップ オンライン講座 (いずれか1日)
A・B	領域及び保育内容の指導法 に関する科目	遊びと文化Ⅰ・Ⅱ	2	34	第1期 7/16 又は 7/17
C		保育内容(表現)	2	34	
D	教育の基礎的理解に関する 科目	教師論	2	34	第2期 9/10 又は 9/11
E	道徳、総合的な学習の時間 等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目	教育の方法・技術	2	34	
F・G		幼児理解・教育相談Ⅰ	2	34	

令和4年度 幼児教育における人材・キャリアアップ支援事業 実施概要

実施概要

- ① 自律的なオンライン講座のデザインと教えないで学べる学修環境の設計
- ④ 「幼児教育コーディネータ養成講座」の実施
(幼稚園教諭2種免許状から1種免許状に上進する認定講座の開設)

<開設科目>

	第1期	第2期
申込期間(必着)	5月23日～6月10日	7月11日～7月29日
受講料振込期間	受講確認票到着後 6月24日	受講確認票到着後 ～8月10日
受講許可書・教材・ 履修証明プログラム 申請用紙発送	振込確認後 ～7月8日	振込確認後 ～9月2日
スタートアップ オンライン講座	7月16日 又は 7月17日	9月10日 又は 9月11日
講習受講期間	7月17日～10月17日	9月11日～12月11日
修了認定試験	10月17日～10月30日	12月11日～12月24日
履修証明プログラム 申請用紙提出〆切	10月30日迄に事務局へ必着 (印刷物を郵送にて提出)	12月24日迄に事務局へ必着 (印刷物を郵送にて提出)
修了認定	採点終了後 判定会議	採点終了後 判定会議
履修証明書発送	12月中旬頃発送予定	2月初旬頃発送予定

実施概要

- ① 自律的なオンライン講座のデザインと教えないで学べる学修環境の設計
- ③ 幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラム構造化と内容の精選

対面とe-Learningを活用した学びとを組み合わせた「ハイブリット型講座」の実施

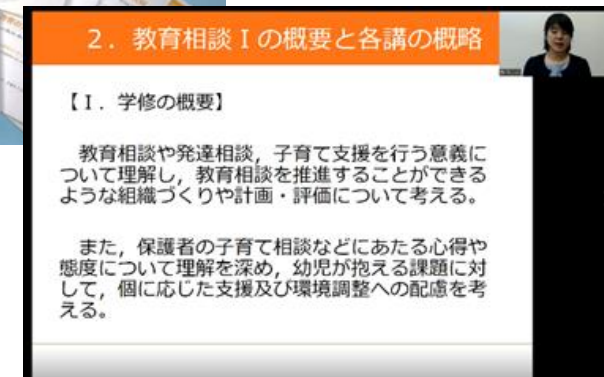
対面での授業の実施 + e-Learning (テキストと動画教材) の実施



対面授業 (zoomによる実施)



e-Learning
(テキストと
動画教材開発)



実際の様子へ

実施概要

- ① 自律的なオンライン講座のデザインと教えないで学べる学修環境の設計
- ④ 「幼児教育コーディネータ養成講座」の実施
(幼稚園教諭2種免許状から1種免許状に上進する認定講座の開設)

<講座の流れ>

※募集要項記載

- (1) 受講申込
- (2) スタートアップオンライン講座受講 (1日, zoomにて)
- (3) 学習開始 (講習受講期間にて学習実施)
- (4) 修了認定試験受講
- (5) 履修証明プログラム申請
- (6) 履修証明書発送

履修証明プログラム制度

(1) 目的

「地域・学校における幼児教育の研修及び専門的指導」のための研修講座の計画立案実践能力，組織化，および地域課題解決への具体的対応力を身につけることにより，地域，学校における保幼小連携などの幼児教育をコーディネートできる人材の育成や，その能力の向上を図ること

※ここでの「学校」とは、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校とする。

(2) コース名

幼児教育コーディネータ養成コース

履修証明プログラム制度

(3) 趣旨・内容

本課程は、「地域・学校における幼児教育の研修及び専門的指導」のための研修講座の立案実践能力，組織化，及び地域課題解決への具体的対応力を身に付けることにより，地域・学校における幼児教育をコーディネートできる人材の育成や，その能力の向上を図ることを目的とする。

※ここでの「学校」とは、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校とする。

(4) 対象者

次の①～③に該当する方

- ① 幼稚園教諭2種免許状所持者で，基礎資格となる免許状を取得した後，幼稚園（特別支援学校の幼稚部及び幼保連携型認定こども園を含む）における教員として在職年数が，12年以上の方。（（1）に該当する方につきましては，2種免許状を1種免許状に上進可能）
- ② 幼稚園教諭1種免許状所持者でスキルアップを目指す方。
- ③ 幼稚園教諭としてお勤めで，管理職・マネジメントの職務についている方。

履修証明プログラム制度

(5) 総時間数

7科目 77時間（履修証明プログラムは60時間以上必要）

(6) コース修了条件

各科目における試験またはレポートによる最終試験を全て合格

(7) 出願書類

- ① 履修証明プログラム履修証明申請用紙
- ② 写真 2枚

実施目的・概要

<実施事業>

小中学校免許状併有のための講習の開発・実施

<実施期間>

令和4年6月30日～令和5年3月31日

<事業内容>

- ・免許法認定講習等の開発・実施
- ・新たな教師の学び（オンライン等）の開発

実施目的・概要

＜事業内容＞

- ・ 免許法認定講習等の開発・実施
- ・ 新たな教師の学び（オンライン等）の開発



中学校教諭免許状保有者で小学校2種免許状の取得を希望する方で、かつ、中学校教諭として中学校での3年以上の勤務経験がある者を対象として希望免許状取得を推進する。

- ① 自律的なオンライン講座のデザインと教えないで学べる学修環境の設計
- ② キャリアステージに対応した教員に求められる資質能力の構造
- ③ 学習環境としての教育リソースの整備

令和4年度 現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業 実施目的・概要

実施概要

① 自律的なオンライン講座のデザインと教えないで学べる学修環境の設計

中学校教諭免許状保有者（実務経験3年以上）が小学校2種免許状を取得するための、文部科学省認定公開講座を開講

<開設科目>

No	教育職員免許法 施行規則に定める 科目区分等	科目名	単位数	受講者数 (人)	スタートアップ オンライン講座
1	生徒指導の理論及び方法, 進路指導及びキャリア教育 の理論及び方法	生徒指導論	2	11	12/11
2	各教科の指導法に関する科 目（情報機器及び教材の活 用を含む。） （所有するすべての中学校 教諭免許状相当する教科を 除く）	初等教科教育法 （理科）	2	17	

令和4年度 現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業 実施概要

実施概要

① 自律的なオンライン講座のデザインと教えないで学べる学修環境の設計

<開設科目>

内容	期間
申込期間（必着）	10月31日～11月14日
受講料振込期間	受講確認票到着後～11月28日
受講許可書・教材・発送	振込確認後 12月1日～
スタートアップオンライン講座	12月11日
講習受講期間	12月11日～令和5年1月15日
修了認定試験	令和5年1月16日～1月30日必着
成績通知書発送	2月中旬頃発送予定

令和4年度 現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業 実施概要

実施概要

- ① 自律的なオンライン講座のデザインと教えないで学べる学修環境の設計
- ③ 学習環境としての教育リソースの整備

対面とe-Learningを活用した学びとを組み合わせた 「ハイブリット型講座」の実施

対面での授業の実施 + e-Learning (テキストと動画教材) の実施

小中連携教育コーディネータに求められる資質

- 複数の学校種・教科等にわたる幅広い理解に基づいた総合的な指導力を持った人材
- 教育DX (Digital Transformation) は、教員がオンライン技術を活用して、学びのあり方やカリキュラムを革新し、同時に、業務や組織、プロセス、学校文化の変革など、時代の変化に対応した教育ができる人材

対面授業 (zoomによる実施)

小中連携教育コーディネータ概論
Introduction to Coordinators of Cooperative Education in Elementary and Secondary Schools

初等教科教育法(理科)
Elementary Subject Education Method (Science)

生徒指導論
Student Guidance Guidelines

実際の様子へ

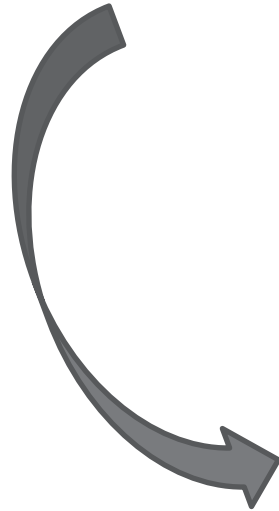
e-Learning (テキストと動画教材開発)

生徒指導論

岐阜女子大学
教授 菊池真也

実施概要

- ① 自律的なオンライン講座のデザインと教えないで学べる学修環境の設計
- ③ 学習環境としての教育リソースの整備



学習内容の基礎
や発展のための
情報
= 教育リソース

<テキスト>

第1講 小中連携教育に関する社会的背景

【学習到達目標】

- ・小中連携教育に関する社会的課題について説明できる。
- ・小学校教員に求められる専門性について具体例を示して説明できる。
- ・小学校と中学校の連携の形態の在り方について説明できる。

1. 小中連携教育に関する社会的課題

小中連携教育については、これまで自治体の職制や交通の在り方等に関する検討はなされていない。児童が、小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活へ移行する段階で、不適応等が増加したりするいわゆる中1ギャップが指摘されている。各課題は、例えば、「授業の準備」「学校の楽しさ」「授業や活動の時間確保」について、中学生になる前段階で、生徒の割合が増えることや、「学習上の悩み」として「上の子との対話がわかりにくい」と回答する児童生徒数や、暴力行為の児童生徒数、いじめの認知件数、不登校児童生徒数が中学校1年生になるとともに大幅に増える実態が明らかになっている。幼小連携については、平成22年に「幼児期の教育と小学校教育の連携促進のための調査研究協力者会議」の報告がなされており、そこでは、幼児期の教育と小学校教育は教育の社会を「学びの場」の形成として捉え、新しい教育を構築し見直すことが必要とされ、その重要性を「道徳性・一貫性」で捉える考え方が示された。

そのために、本学としては令和4年度（2022）より「幼児教育コーディネーター養成カリキュラム」を開設し、講座を開設しているところである。

また、中高一貫教育については、子供たちが保護者などの選択の機会をもち、学校側の個別化対応を進める観点から、生徒の個性や個性を伸ばすことを目的として、平成11年度に「中高一貫教育制度」が部分的に導入され、平成23年に文部科学省において当該制度の成果と課題について調査を行い、中高一貫教育制度が今後とも持続する教育を展開することを促すため、教育課程の抜本的見直しが必要とされている。

小中連携教育、一貫教育に取り組む学校、市町村においては、小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活へ移行する段階で、不適応等の半世紀以上の疑問につながっていく課題（いわゆる中1ギャップ）に直面し、小学校から中学校への接続を円滑化する必要

性を認識し、小中連携教育、一貫教育に取り組むためのケースが見られる。特に、学校の運営・協働に関する現状と課題認識において共通しており、児童生徒の発達が早まることを踏まえ、小学校高学年から中学校入学後までの期間に高学年、当該期間に重点的に取り組む行為が見られる。

小中連携、一貫教育に取り組むのは児童生徒もめぐる中1ギャップに直面したことであったとしても、学校、市町村においては、それぞれの進捗にあわせた目的を明確化するとともに関係者で共有し、学校全体で詳細に取り組むことで、小中一貫教育の成果を上げることが期待される。

2. 小中連携教員の資質向上

令和3年1月26日中央教育審議会の「令和の「生涯学習教育」の構築を目指して～全（小）の子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（高甲）」において次のような発言がなされている。

（1）2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿 【教育の姿】

- ・教育の役割の刷新や新たなテーマなど学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学習し、子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての覚悟を求めている。その際、子供の主体的な学びを支える伴走者としての能力も備えている。
- ・教育費削減、採用、免許取得も高めた方策を通じ、多様な人材の教育者としての個性や強みの位置・能力の向上により、質の高い教育環境が実現されるとして、教師と、業務・財務等に精通する専門職である事務職員、それぞれの分野で高度な専門性を持つ多様な外部人材や専門スタッフ等がチームとなり、個々の教職員がチームの一員として積極的・協働的に取り組む力を発揮しつつ、校長のリーダーシップの下、学校が地域社会と連携しながら、共通の学校教育目標に向かって学校教育が進められている。
- ・さらに、学校における働き方改革の実現や労働力の確保、新卒の学びを支える環境整備により、教師が包括的で魅力ある仕事であることが認識され、教師を目指そうとする者が増加し、教師自身も志気を高め、誇りを持って働くことができる。



「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全（小）の子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（高甲）

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力に関する調査

A. 保育（保育構想・保育実践・評価改善）

A1	自園の課題、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた指導計画を作成し、他の教員に広めていくことができる。
A2	幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ自園の課題の解決に努め、日常的な保育の改善に向けて研究体制を整えることができる。
A3	各領域等を総合的・一体的に扱う保育のモデルを示すなど、保育実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員に広めていくことができる。
A4	自園の課題を踏まえ人格形成の基礎を培う実践について、他の教員に伝えたり、適切に助言を行ったりすることができる。
A5	自園の保育力向上に向けた取組の課題を明らかにし、指導計画等の改善を行うことができる。
A6	他の教員に対して、保育実践の評価を生かした指導改善について、適切に助言を行うことができる。

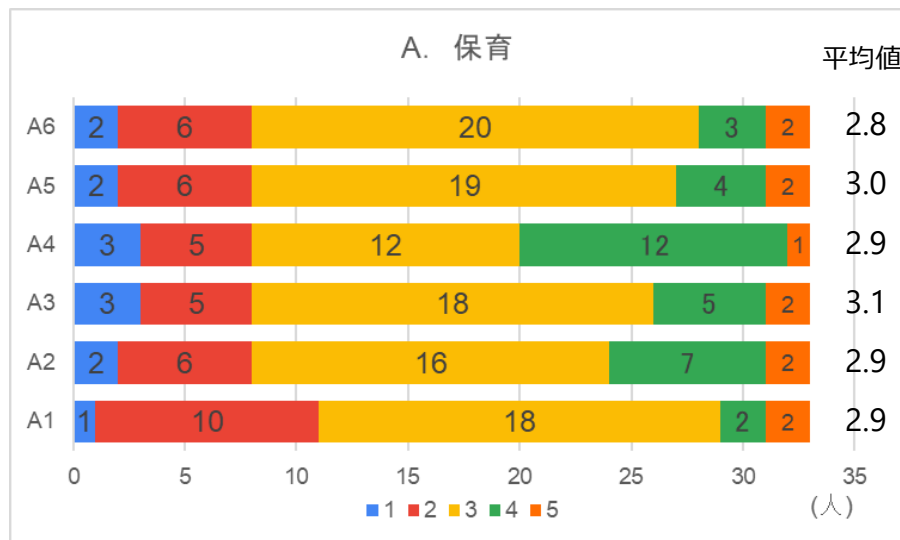


図1. 保育に関する資質・能力（受講前）

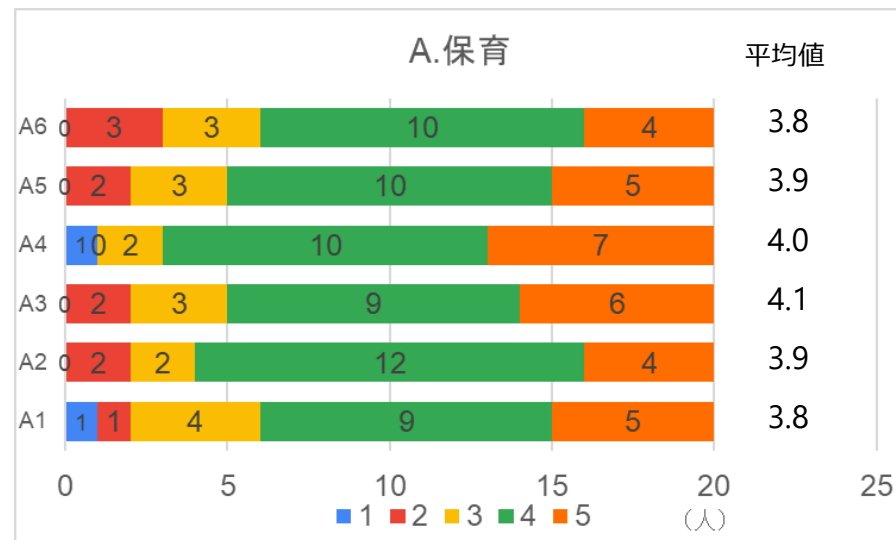


図1. 保育に関する資質・能力（受講後）

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力に関する調査

B. 教育環境の創造（幼児理解・生活の展開・発達の課題）

B1	様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。
B2	継続的に幼児の言動を見届け、価値付ける指導を行ったり、幼児の捉え方について助言を行ったりすることができる。
B3	関係職員や保護者等と協力して、幼児の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。
B4	幼児に対する指導を組織的・計画的に実践できるように、体制を整えるとともに問題の未然防止の取組を実践することができる。
B5	幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。
B6	幼児の多様な発達の課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。

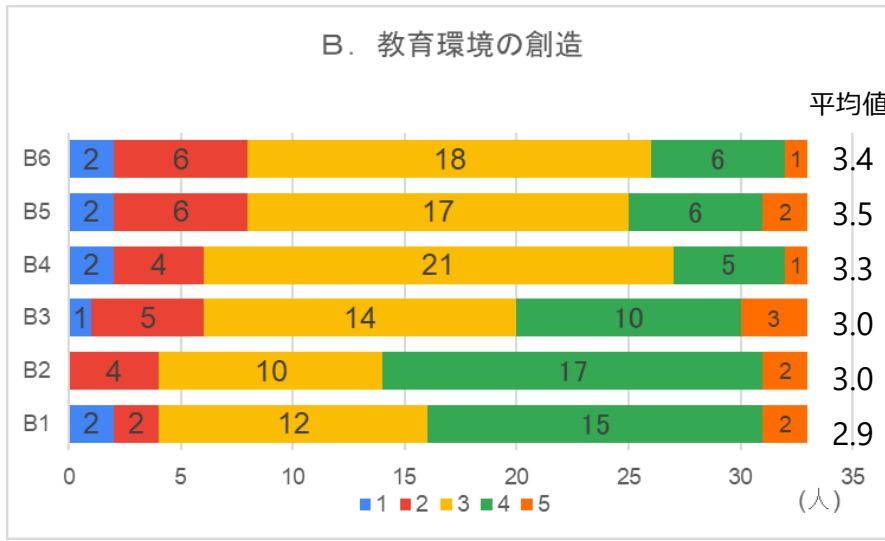


図2. 教育環境の創造に関する資質・能力（受講前）

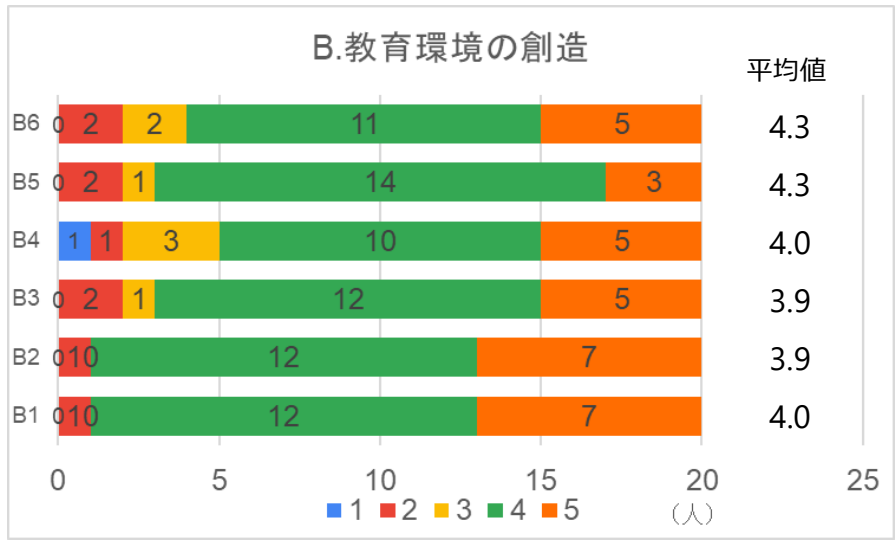


図2. 教育環境の創造に関する資質・能力（受講後）

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力に関する調査

C. 経営分掌（学級・学年・園経営・連携・協働・危機管理）

C1	自園の分掌全般に関して理解を深め、組織を生かしながら各分掌を推進することができる。
C2	自園の教育目標具現に向けて、園の組織間の連絡・調整を行うとともに若手教員の育成をすることができる。
C3	他の教員等の取組状況を把握し、連絡・調整をしながら対応することができる。
C4	広い視野をもち、関係機関や保護者・地域等と連携し、組織を生かした対応をすることができる。
C5	関係機関や保護者・地域等と連携し、事故等の未然防止や発生時における迅速な対応を行うことができる。
C6	自園を取り巻く環境について、家庭・地域・関係機関との協力体制を整えるとともに、適切に対応することができる。

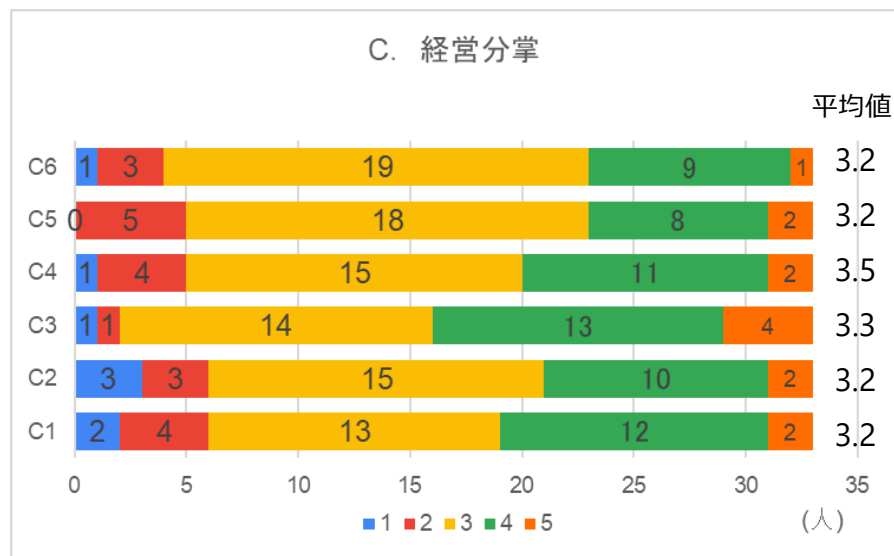


図3. 経営分掌に関する資質・能力（受講前）

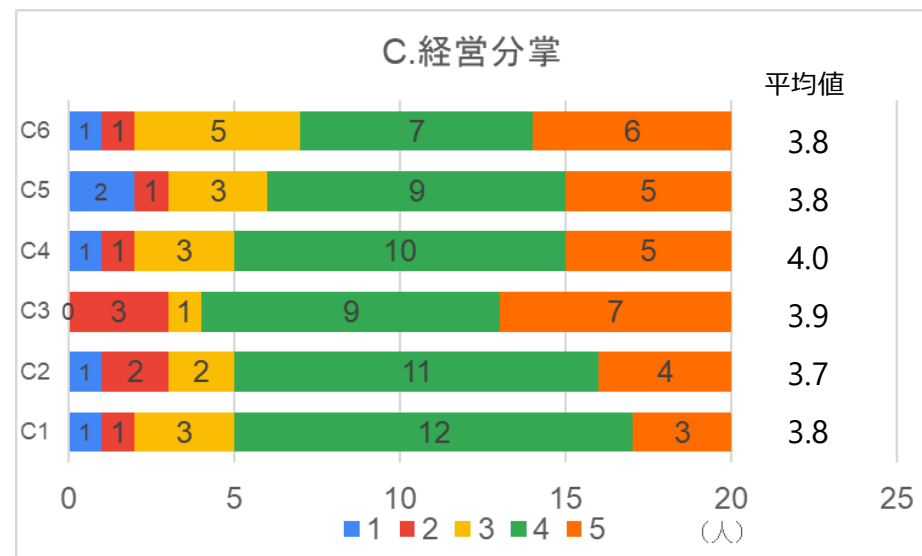


図3. 経営分掌に関する資質・能力（受講後）

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力に関する調査

D. 特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応

- D1 全校的な支援の充実に向け、職員の連携による指導の体制を整え、組織的・持続的な支援のために主体的に働きかけることができる。
- D2 幼児児童生徒への一貫した教育支援を目指し、保護者や地域、関係機関と連携した支援体制の構築を推進することができる。

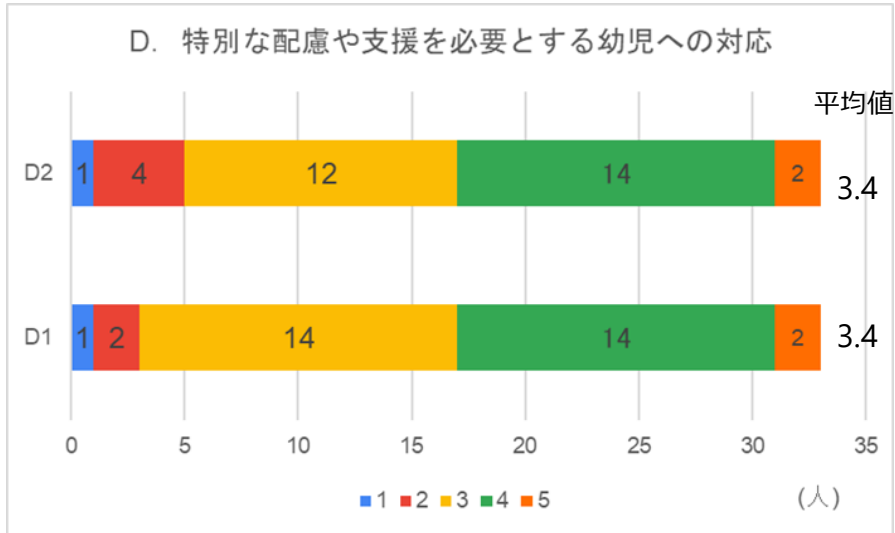


図4. 教育環境の創造に関する資質・能力 (受講前)

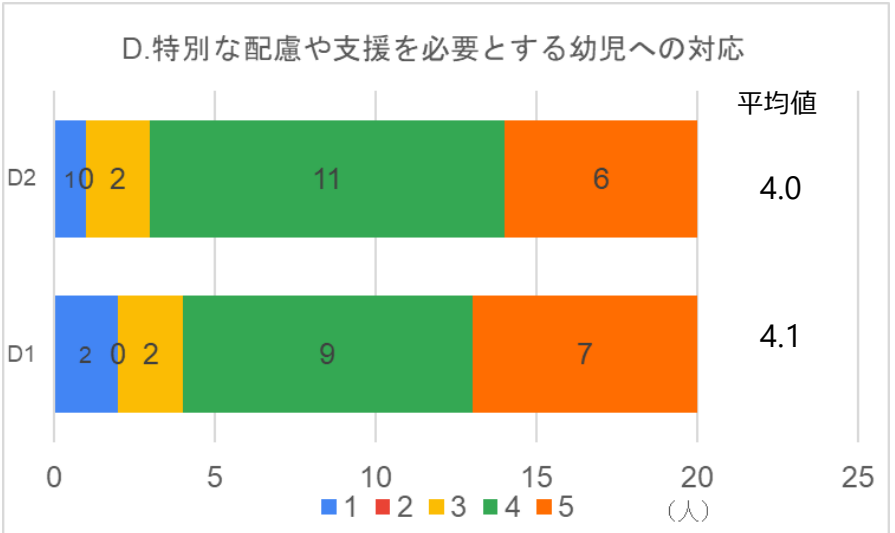


図4. 教育環境の創造に関する資質・能力 (受講後)

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力に関する調査

E. ICTや情報・教育データの利活用

E1 自からのICT活用指導力を高め、これまでの経験を踏まえた活用方法を提案したり、実践したりすることができる。

E2 自園のICTや情報・教育データの活用を俯瞰的に捉え、組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。

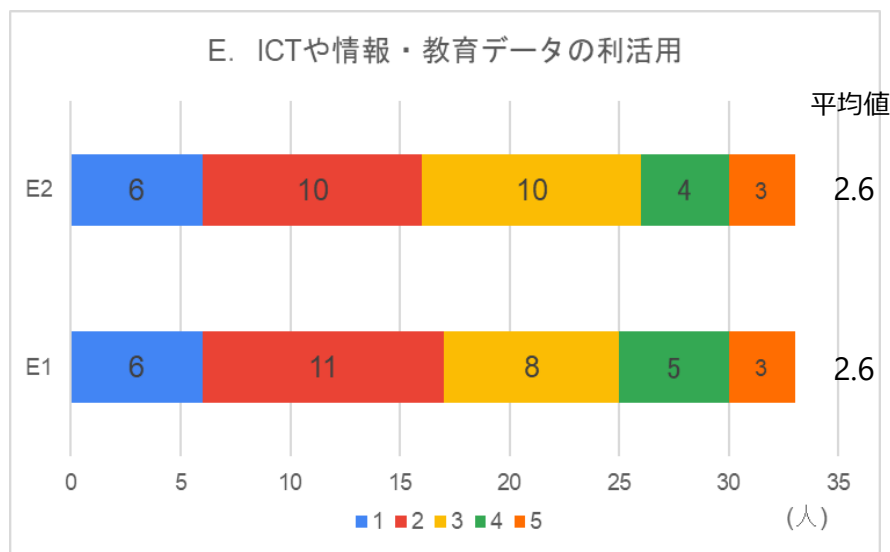


図5. ICT・情報・教育データに関する資質・能力（受講前）

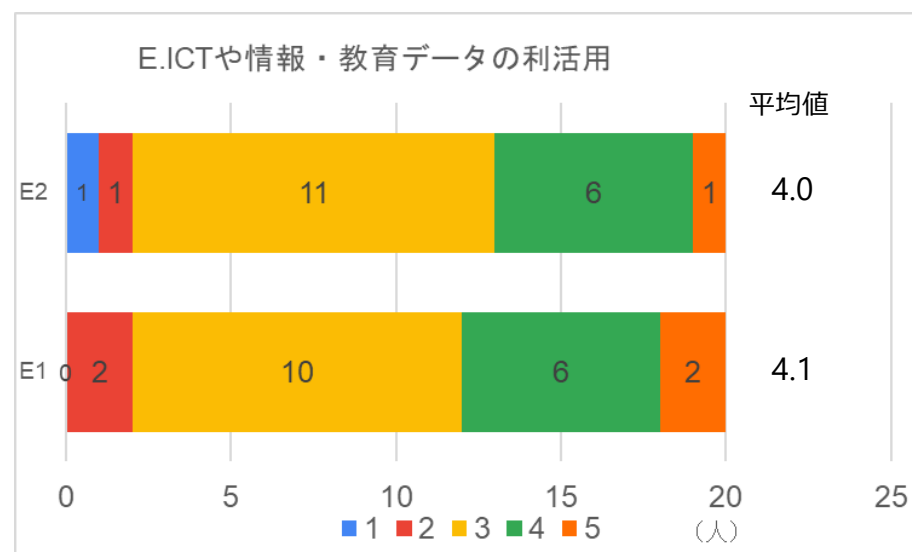


図5. ICT・情報・教育データに関する資質・能力（受講後）

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力に関する調査

F. インストラクショナルデザイン指導力

(インストラクショナルデザイン・研修成果の評価・ワークショップ・教育リソース)

F1	自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。
F2	インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に関役立つ自分の学びを設計できる。
F3	e-Learningにより学修がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。
F4	研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。
F5	研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
F6	全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。

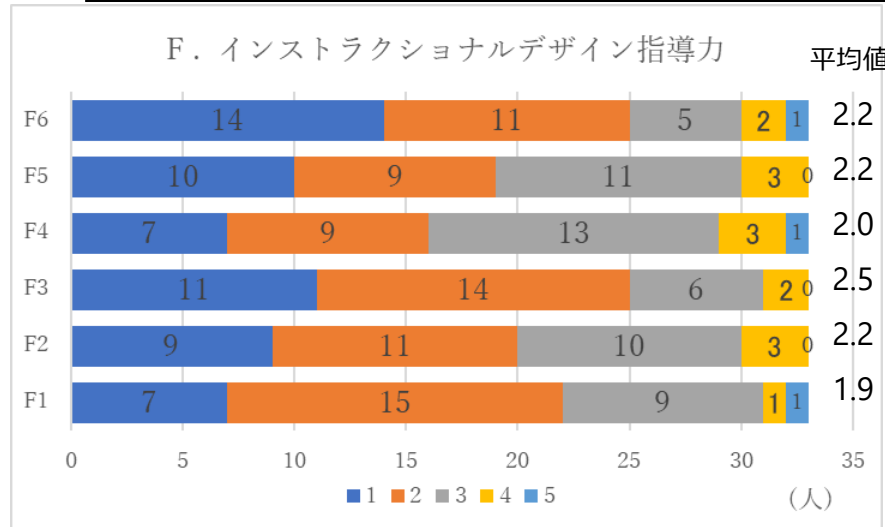


図6. インストラクショナルデザイン指導力に関する資質・能力 (受講前)

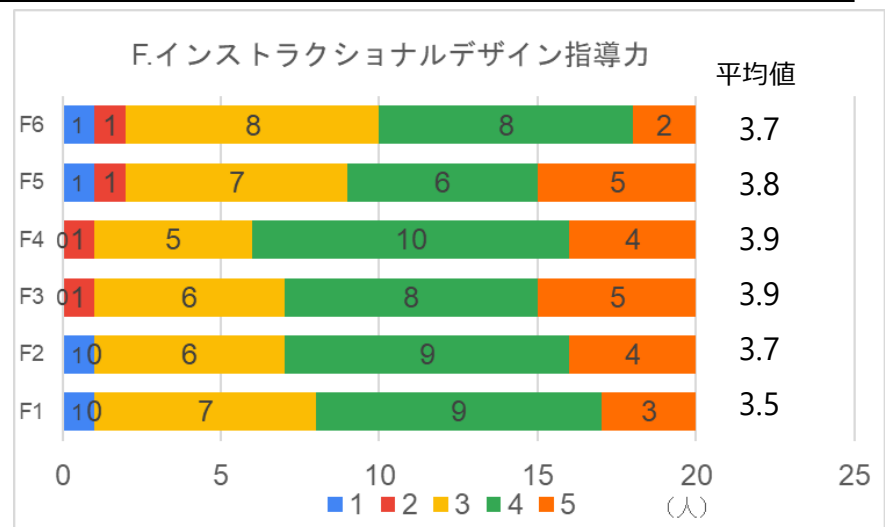
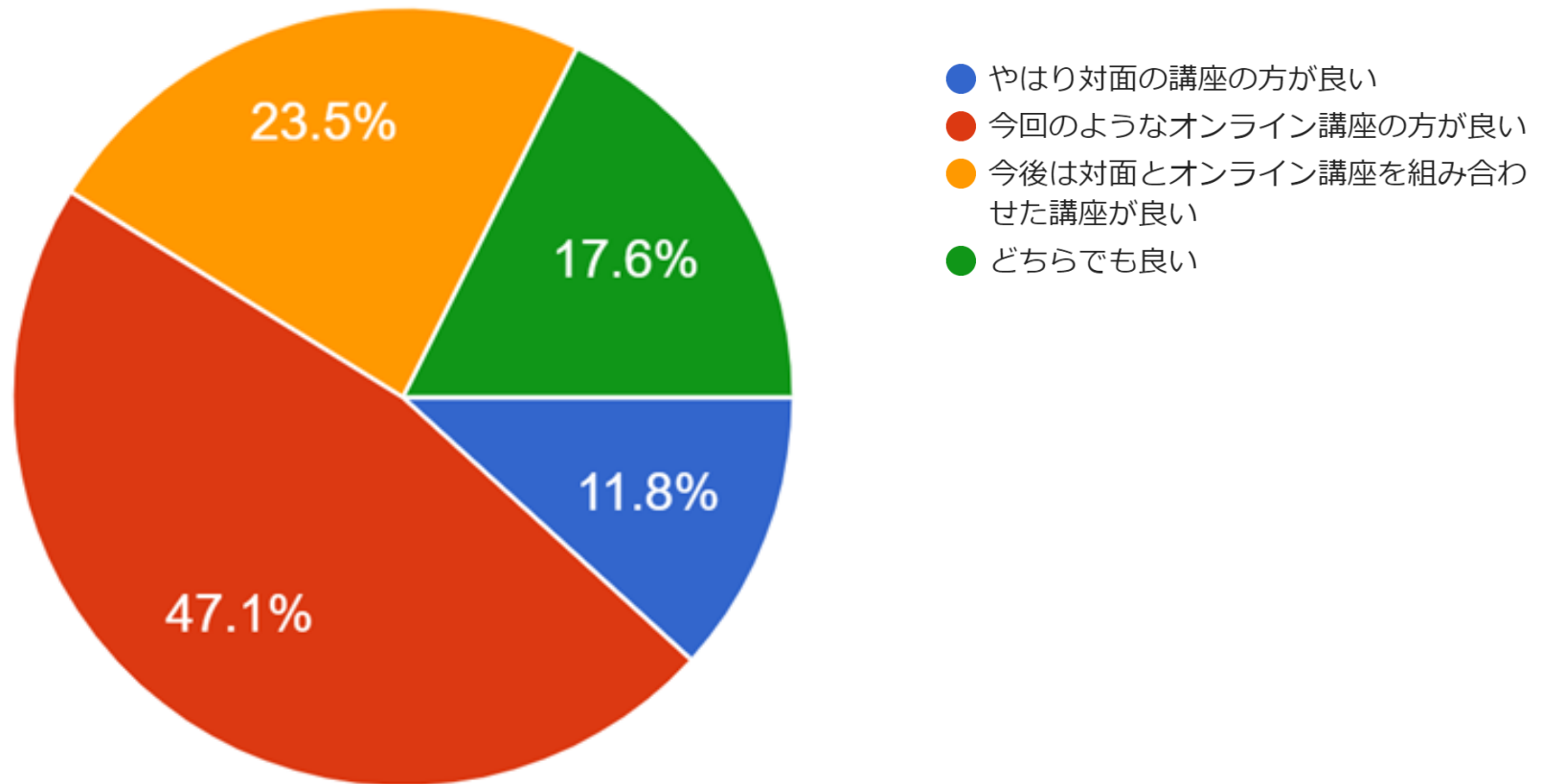


図6. インストラクショナルデザイン指導力に関する資質・能力 (受講後)

幼児教育コーディネータ学習方法

(1) オンライン講座を初めて参加して、今後の講座の方法について

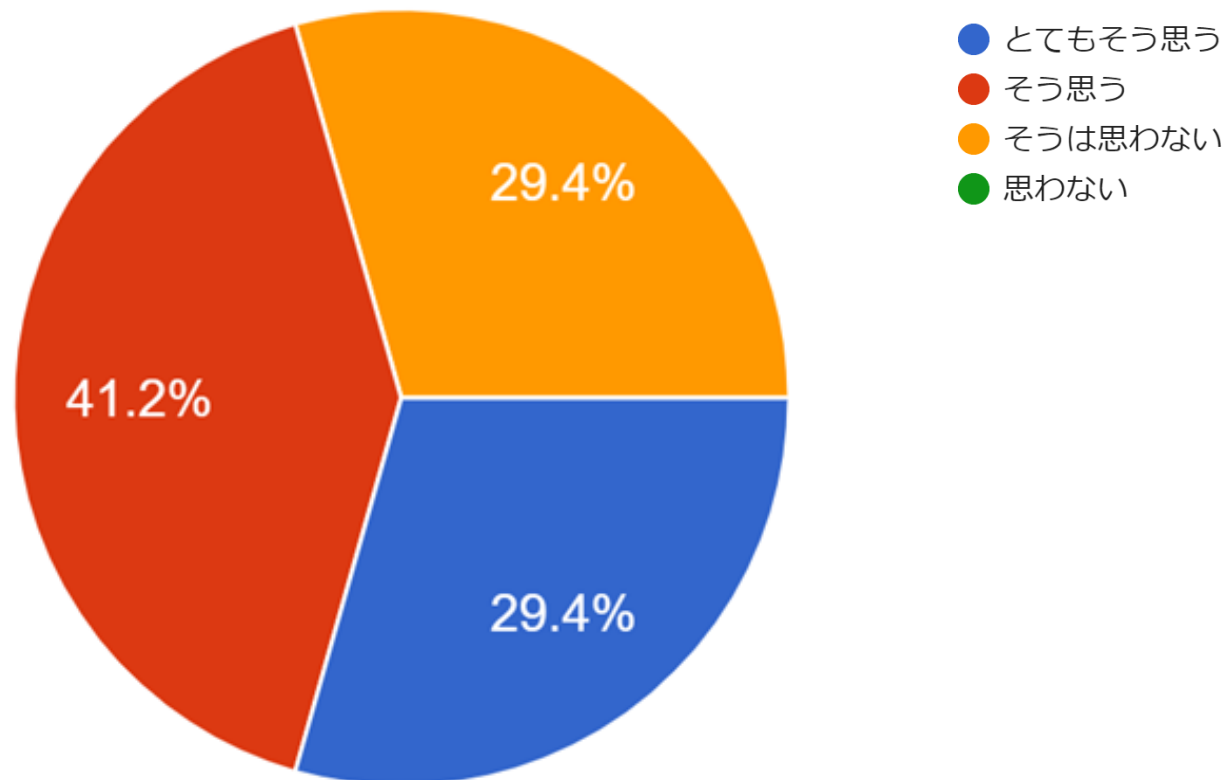
17件の回答



幼児教育コーディネーター学習方法

(3) オンライン講座は対面の講座と比べて集中して話を聞くことができましたか？

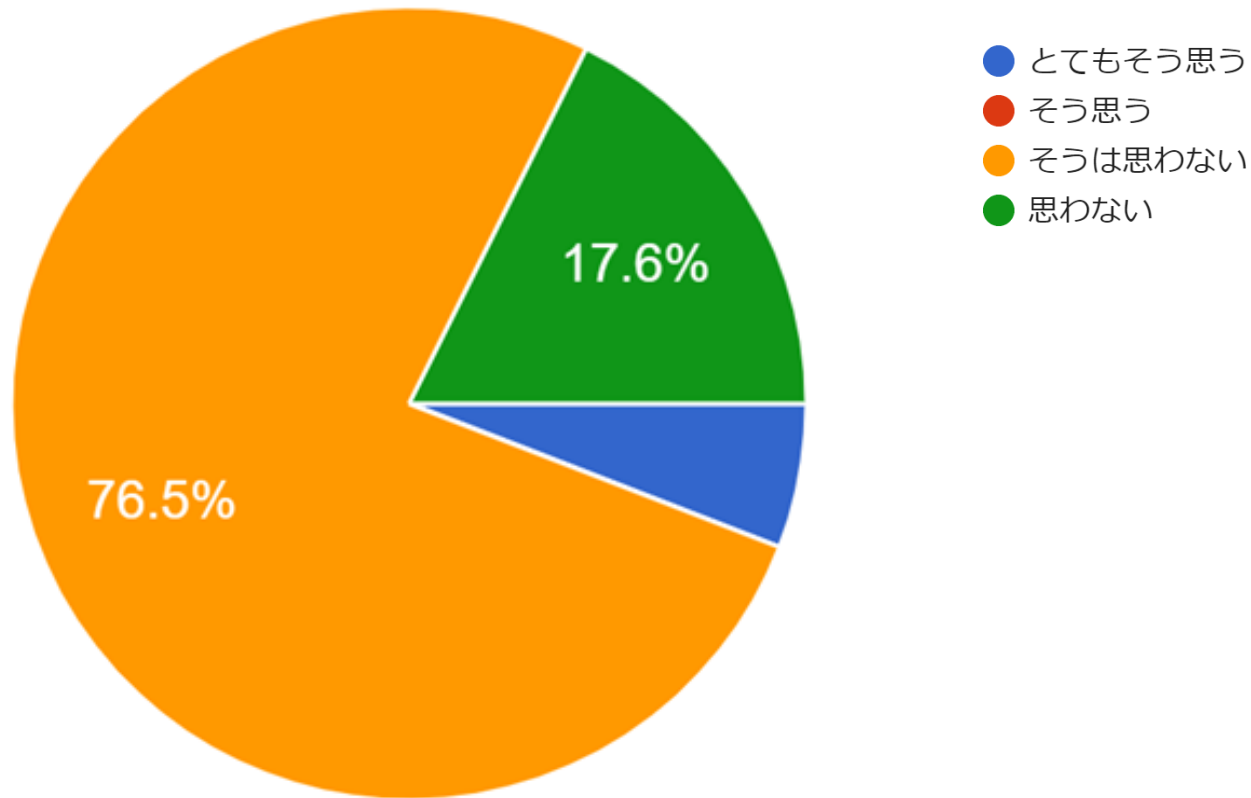
17件の回答



幼児教育コーディネーター学習方法

(4) オンライン講座は対面の講座と比べて理解度が低くなると思いますか？

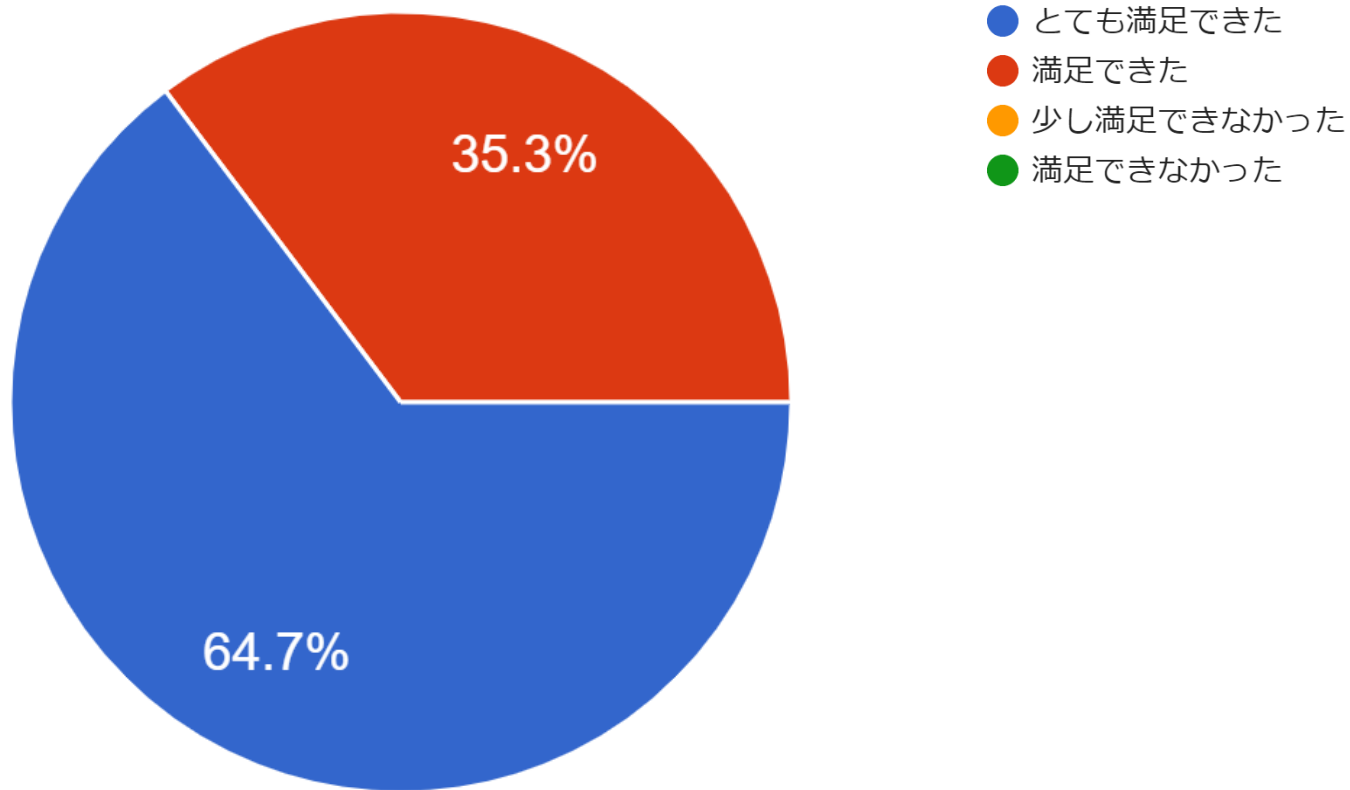
17件の回答



幼児教育コーディネーター学習方法

(5) 今回のオンライン講座に参加して満足出来ましたか？

17件の回答



【成果】

○幼児教育コーディネータの養成カリキュラム構造化と内容の精選

⇒・幼児教育コーディネータに求められる資質能力の向上を図ることができた

=・**カリキュラムの構造化と内容の精選の妥当性が認められた**

○自律的なオンライン講座のデザインと教えないで学べる学修環境の設計

⇒・学習の満足度・理解度は好評

=・**ハイブリッド型の学習方法が認められた**

令和5年度に向けて

<人材育成の実施>

■ 幼児教育コーディネータ

- ・ 7科目の講座の開設

遊びと文化Ⅰ・Ⅱ, 保育内容(表現), 教師論, 教育の方法・技術, 幼児理解・教育相談Ⅰ

■ 小中連携教育コーディネータ

- ・ 5科目の講座の開設

生徒指導論, 初等教科教育法(理科)・(算数)・(音楽)・教育相談Ⅱ

※開設科目は、現時点での予定であり、変更の可能性もあります

【成果報告会】

文部科学省委託事業

令和4年度 幼児教育における人材確保・キャリアアップ支援事業
現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業

成果報告会

2023/03/11

本日のご参加，誠にありがとうございました。

岐阜女子大学

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

- ②キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力の構造化
- ③幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラム構造化と内容の精選

「岐阜県『教員のキャリアステージ』における資質の向上に関する指標」

■ 教員のキャリアステージ

「基礎形成期」「資質向上期」「資質充実期」「資質貢献期」

■ 「岐阜県『教員のキャリアステージ』における資質の向上に関する指標」

A) 保育・・・保育構想, 保育実践, 評価改善

B) 教育環境の創造・・・幼児理解, 生活の展開, 発達課題

C) 経営・分掌・・・学級・学年・園経営, 連携・協働, 危機管理

D) 特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応

E) ICTや情報・教育データの利活用

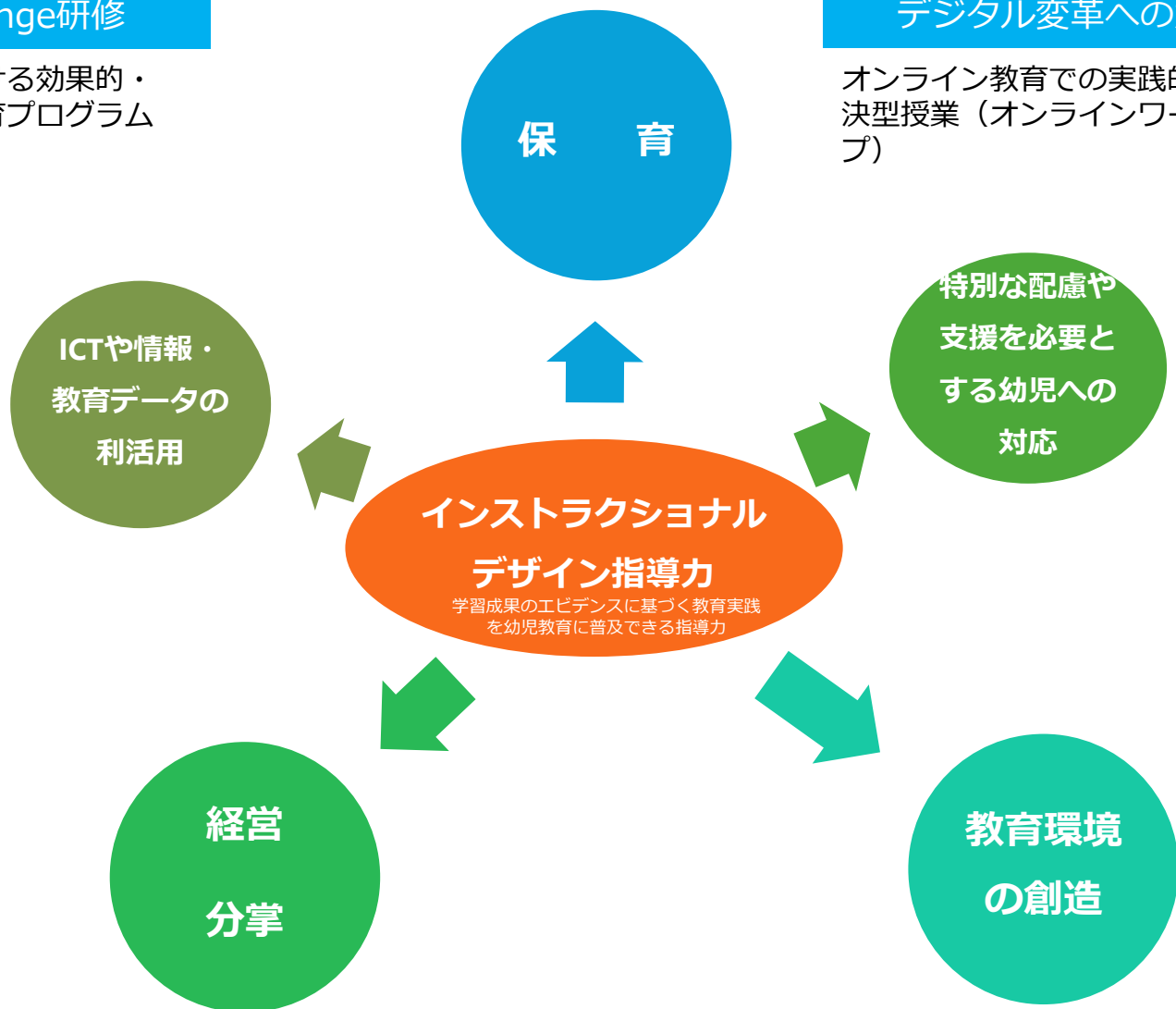
キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力の構造化

■ デジタル変革に対応したskill upからSkill change研修

オンライン教育における効果的・効率的・魅力的な教育プログラム

■ 自律的なオンライン研修とデジタル変革への意識改革

オンライン教育での実践的な課題解決型授業（オンラインワークショップ）



幼児教育コーディネータの資質・能力の構造化

参考：岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標 改訂版【幼稚園等】における【資質充実期】並びに【資質貢献期】（令和3年10月）

資質・能力カテゴリー		幼児教育コーディネータに必要な資質・能力
保 育	保育構想	(1)自園の課題、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた指導計画を作成し、他の教員に広めていくことができる。 (2)幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ自園の課題の解決に努め、日常的な保育の改善に向けて研究体制を整えることができる。 (3)各領域等を総合的・一体的に扱う保育のモデルを示すなど、保育実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員に広めていくことができる。 (4)自園の課題を踏まえ人格形成の基礎を培う実践について、他の教員に伝えたり、適切に助言を行ったりすることができる。 (5)自園の保育力向上に向けた取組の課題を明らかにし、指導計画等の改善を行うことができる。 (6)他の教員に対して、保育実践の評価を生かした指導改善について、適切に助言を行うことができる。
	保育実践	
評価改善		
教育環境の創造	幼児理解	(1)様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。 (2)継続的に幼児の言動を見届け、価値付ける指導を行ったり、幼児の捉え方について助言を行ったりすることができる。 (3)関係職員や保護者等と協力して、幼児の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。 (4)幼児に対する指導を組織的・計画的に実践できるように、体制を整えるとともに問題の未然防止の取組を実践することができる。 (5)幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。 (6)幼児の多様な発達の課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。
	生活の展開	
	発達の課題	
経営分掌	学級・学年・園経営	(1)自園の分掌全般に関して理解を深め、組織を生かしながら各分掌を推進することができる。 (2)自園の教育目標具現に向けて、園の組織間の連絡・調整を行うとともに若手教員の育成をすることができる。 (3)他の教員等の取組状況を把握し、連絡・調整をしながら対応することができる。 (4)広い視野をもち、関係機関や保護者・地域等と連携し、組織を生かした対応をすることができる。 (5)関係機関や保護者・地域等と連携し、事故等の未然防止や発生時における迅速な対応を行うことができる。 (6)自園を取り巻く環境について、家庭・地域・関係機関との協力体制を整えるとともに、適切に対応することができる。
	連携・協働	
	危機管理	
特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応		(1)全校的な支援の充実に向け、職員の連携による指導の体制を整え、組織的・持続的な支援のために主体的に働きかけることができる。 (2)幼児児童生徒への一貫した教育支援を目指し、保護者や地域、関係機関と連携した支援体制の構築を推進することができる。
ICTや情報・教育データの利活用		(1)自からのICT活用指導力を高め、これまでの経験を踏まえた活用方法を提案したり、実践したりすることができる。 (2)自園のICTや情報・教育データの活用を俯瞰的に捉え、組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。
インストラクショナルデザイン指導力	インストラクショナルデザイン	(1)自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。 (2)インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。 (3)e-Learningにより学修がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。 (4)研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
	研修成果の評価	
	ワークショップ	
	教育リソース	(6)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

科目名	幼児教育コーディネータに必要な資質・能力
遊びと文化Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> (1) 幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ自園の課題の解決に努め、日常的な保育の改善に向けて研究体制を整えることができる。 (2) 各領域等を総合的・一体的に扱う保育のモデルを示すなど、保育実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員に広めていくことができる。 (3) 様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。 (4) 幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。
遊びと文化Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> (1) 幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ自園の課題の解決に努め、日常的な保育の改善に向けて研究体制を整えることができる。 (2) 各領域等を総合的・一体的に扱う保育のモデルを示すなど、保育実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員に広めていくことができる。 (3) 様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。 (4) 幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。 (5) 幼児の多様な発達の課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。
保育内容 (表現)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 幼稚園教育要領領域「表現」を幼児の発達段階に即して理解することができる。 (2) 幼児の個性に即して適切な支援をすることができる。 (3) 幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を見通した造形教育を計画することができる。 (4) 創造的に学ぶ(クリエイティブ・ラーニング)教育について事例を挙げて説明できる。 (5) 全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育リソースの活用について事例を挙げて説明できる。 (2) 個々の幼児のみならず、園全体のことを考えたうえで課題意識を表象化して、研修課題をテーマを絞り込むことができる。
教師論	<ul style="list-style-type: none"> (1) 教育の先駆者の教育思想や教育方法を踏まえた教師像をもつことができる。 (2) 現代の教育方法について理解し、目指す教育方法を共有化できる。 (3) 教育目標の実現に向けた教育の枠組みの考え方を身に付けることができる。 (4) 児童中心主義の考え方の原点を学ぶことができる。 (5) 倉橋惣三の保育論を通して、幼児教育の「不易」について理解することができる。 (6) 21世紀型保育の在り方の重要な視点について理解することができる。 (7) 野村芳兵衛の保育論を通して、発達段階に即した保育の在り方について理解することができる。 (8) 幼稚園教育要領等のねらいを達成し内容を適切に指導する際の重要な点について理解することができる。 (9) 広い視野をもち、関係機関や保護者・地域等と連携し、組織を生かした対応をすることができる。 (10) 自園を取り巻く環境について、家庭・地域・関係機関との協力体制を整えるとともに、適切に対応することができる。

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

科目名	幼児教育コーディネータに必要な資質・能力
教育の方法・技術	<ul style="list-style-type: none">(1) 自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。(2) インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。(3) e-Learningにより学修がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。(4) 研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。(5) 研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。(6) 全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現のための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。(7) 自からのICT活用指導力を高め、これまでの経験を踏まえた活用方法を提案したり、実践したりすることができる。(8) 自園のICTや情報・教育データの活用を俯瞰的に捉え、組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。
幼児理解	<ul style="list-style-type: none">(1) 様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。(2) 継続的に幼児の言動を見届け、価値付ける指導を行ったり、幼児の捉え方について助言を行ったりすることができる。(3) 関係職員や保護者等と協力して、幼児の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。(4) 幼児に対する指導を組織的・計画的に実践できるように、体制を整えるとともに問題の未然防止の取組を実践することができる。(5) 幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。(6) 幼児の多様な発達の課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。(7) 研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。(8) 幼児の理解を、エビデンスベースで理解することができる。(9) 主観的解釈から脱却し、他者の解釈を聞くことができる。
教育相談 I	<ul style="list-style-type: none">(1) 様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。(2) 継続的に幼児の言動を見届け、価値付ける指導を行ったり、幼児の捉え方について助言を行ったりすることができる。(3) 関係職員や保護者等と協力して、幼児の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。(4) 幼児に対する指導を組織的・計画的に実践できるように、体勢を整えるとともに問題の未然防止の取り組みを実践することができる。(5) 幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の基点となって実践することができる。

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

幼児教育コーディネータに必要な資質・能力に関する調査

「幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラムの開発・試行」での基礎資料とすることを目的としてアンケートを企画・実施。受講生の受講前の資質・能力の実態を把握した。受講後に再度同じ設問にて調査を実施し、変容を捉える。

- 実施時期：前-令和4年7・9月
後-令和4年12～令和5年1月
- 実施対象：受講生34名（前-回答33名，後-20名）
- 実施方法：Web方式

■ 幼児教育コーディネータに必要な資質・能力

- A) 保育・・・保育構想，保育実践，評価改善
- B) 教育環境の創造・・・幼児理解，生活の展開，発達の課題
- C) 経営・分掌・・・学級・学年・園経営，連携・協働，危機管理
- D) 特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応
- E) ICTや情報・教育データの利活用